

【中学校版】令和7年度全国学力・学習状況調査の結果

令和7年10月
菰野町教育委員会

令和7年4月17日に、中学校3年生を対象に実施された全国学力・学習状況調査の結果の概要をまとめました。

結果の公表については、保護者・地域の皆様に学校教育と家庭教育についてのご理解とご協力を得ることが何よりも大切であると考え、教科に関する結果、学力の背景となっている生徒質問紙調査からみられた本町の生徒の好ましい傾向と教育課題、そして今後の取り組みについてお示しさせていただきます。

教科に関する調査結果の概要

今年度の教科に関する調査は、国語、数学、理科の3教科で実施されました。本町では、国語、数学、理科それぞれにおいて、全国、三重県の平均正答率を下回る結果となりました。

以下に、調査結果から「おおむね理解している問題」と「課題がみられた問題」についてまとめました。

【中学校 国語】

《おおむね理解している問題》

◇ 相手や目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にする問題。

正答率：約8割

- ・小学校6年生に向けて作成しているちらしに、美術展の「会場図」を加えた目的を説明したものとして適切なものを選択することができます。

《課題がみられた問題》

◆ 文学的な文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる問題。

正答率：約1割

- ・「一 榎木の実」に書かれている場面が、「二 釣の話」には書かれていないことによる効果について、自分の考えとそのように考えた理由を書くことに課題がみられます。

課題がみられた問題

1031

島崎藤村

一榎木の寒

[illegible]

二 釣の話

ある日、お龍さんは兄の兄弟釣の道具を造つてはくれる言ひました。

「はい、お龍さんへ釣の道具は、むしろさういう、と二人の子供がさと思つて見ていました。この兄弟の家の中庭には釣針一本あるのがあませんでしたから。」

お龍さんは何処から釣針を探して来ましたが、そればかり細い竹で出来てしまふので、それで二つの釣竿を造りました。

「釣針もさあ、今度は草の穂です」とお龍さんが言つて、葉取りで木葉から取ります。丁度お龍さんように、その葉から白い糸が取れるのです。お龍さんは虫かを取れば糸を取れば糸を取らして、それを長い引き延ばしました。その糸が目に見えて堅くなる頃は、兄弟の手力で引いても切れないといふ丈夫で立派なものがありました。

「さあ、釣の道具が出来ました」と言つて兄弟に示されました。

二人の子供はお龍さんが造つた釣針を手を握けてして、大喜びで小川の力を出掛けて行きました。小川の中には魚の生えてゐる場所がありました。兄弟は網のいい方を見立てて、胡蝶の木でかけに腰を掛け釣りをしました。

半日ばかりすると、二人の子供が小川の岸まで進んで家の方へ帰つて来ました。丁度お龍さんも一ぱい準備つて山の方から帰つて来たところでした。

「釣れましたか？」とお龍さんが聞きますと、兄弟の供は嬉しかったやうに首を振ります。賢いお魚は一匹も二人の釣針に掛りませんでした。

「それなんです。」

その時、兄弟の供はお龍さんに釣の話をしました。兄はゆくり勝て釣つたものですから釣針にしには皆んな頼りに使られていました。

弟はまたお龍さんの釣れずのを待てなくて、ほんとに釣れるまで待つていてくれませんでした。つい水の中を掻廻すと、眼は皆な驚いて石の下へ隠れてしまいました。

お龍さんは供の釣の話聞いて、正直な人の好きなやうな顔で笑いました。そして二人の兄弟について申しせん。

「一人はあるまじ気が長過ぎたし、また、一人はあるまじ気が短過ぎた。釣の道具ばかりでお魚釣れませんでした。」

（魚釣針）二人は兄弟になる

《今後の学習の手立て》

文学的な文章を読む学習では、各場面を捉えてそれぞれの構成を理解するだけでなく、登場人物の心情の変化に沿って「文章の流れ」を捉え、その「展開」を把握することが重要です。

その際、文章の構成や展開を把握した上で、「なぜそのような構成や展開になっているのか」「それがどのような効果につながるのか」など、自分なりの意味づけをすることが大切です。

文学的な文章は、作品によって構成や展開が異なります。まず、展開を予測しながら読ませ、その作品ならではの特徴的な構成や展開について着目させる活動を行います。そして、その効果について自分なりの考えを持たせます。その後、着目した構成や展開を示しながら、効果について考えたことをグループで交流し合う学習活動を設定していきます。

【中学校 数学】

《おおむね理解している問題》

◇ 必ず起こる事柄の確率について理解しているかどうかをみる問題。

正答率：約8割

- ・ Aの手元のカードが3枚とも「グー」、Bの手元のカードが3枚とも「チョキ」でじゃんけんゲームの1回目を行う時、1回目にAが勝つ確率を求めることができます。

《課題がみられた問題》

- ◆ 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる問題。

正答率：約4割
- ・ 連続する三つの3の倍数の和が、9の倍数になることを説明することに課題がみられます。

課題がみられた問題

結菜さんは、連続する2つの3の倍数を、連続する3つの3の倍数に変えた場合、その和がどんな数になるかを調べました。

3、 6、 9 のとき	$3 + 6 + 9 = 18 = 9 \times 2$
6、 9、 12 のとき	$6 + 9 + 12 = 27 = 9 \times 3$
9、 12、 15 のとき	$9 + 12 + 15 = 36 = 9 \times 4$

結菜さんは、これらの結果から次のことを予想しました。

予想

連続する3つの3の倍数の和は、9の倍数になる。

上の予想がいつでも成り立つことを説明します。下の説明2を完成しなさい。

説明2

n を整数とすると、連続する3つの3の倍数は、 $3n$ 、 $3n+3$ 、 $3n+6$ と表される。
それらの和は、

$$3n + (3n + 3) + (3n + 6) =$$

《今後の学習の手立て》

本問題は、「連続する三つの3の倍数の和が、9の倍数になる。」という予想について、文字を用いた式を変形したり、その意味を読み取ったりして、その予想がいつでも成り立つことを説明することができるかどうかをみる問題です。

この問題を解決するためには、文字で表された連続する三つの3の倍数、 $3n$ 、 $3n+3$ 、 $3n+6$ の和を『 $9 \times (\text{整数})$ 』の形の式に変形すればよいという見通しをもつことができるかどうかが必要となってきます。

菰野町の誤答の傾向として、連続する三つの3の倍数の和を『 $9 \times (\text{整数})$ 』の形の式にすればよいという見通しを立てずに、式を変形して解答をすすめる生徒がみられました。

今後の授業では、見通しをもつ場面を設定し、「いつでも9の倍数になる」ことを示すためには、式を変形した結果がどうなればよいのかについて考えさせ、9の倍数ならば、『 $9 \times (\text{整数})$ 』の形で表される数になることを確認していきます。

また、変形した式を読み取り、予想が成り立つことについて説明する学習場面では、「 $9(n+1)$ は9の倍数である。」のような表現が不十分な説明を取り上げて、「 $n+1$ は整数である」ことや「 $9(n+1)$ が $9 \times (\text{整数})$ である」のような表現を用いて説明する学習活動を設定していきます。

【中学校 理科】

《おおむね理解している問題》

- ◇ 抵抗に関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる問題。

正答率：約9割

- ・抵抗に関する知識を手がかりに、身近な電化製品の電気回路に抵抗がついている理由を選択することができます。

《課題がみられた問題》

- ◆ 身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定できるかどうかをみる問題。
- 正答率：約4割
- ・「理科の実験では、なぜ水道水ではなく精製水を使うのかな？」という疑問を解決するための課題を記述することに課題がみられます。

課題がみられた問題

課題を設定する

Aさん

【Aさんの疑問】
理科の実験では、なぜ水道水ではなく精製水を使うのかな？

【Aさんの疑問】を調べたり、実験を行ったりして解決するためには、どのような課題にすればよいですか？

Aさん

課題は、
() にしようと思います。

【Aさんの疑問】を解決するために、() に適切な課題を書きなさい。

課題

《今後の学習の手立て》

本問題では、「理科の実験では、なぜ水道水ではなく精製水を使うのかな？」という疑問を解決するための課題を記述することが求められました。

誤答の傾向として、解決したい科学的な探究の課題としての表現ができていない生徒が多くみられました。

見通しをもって科学的に探究をするためには、疑問や見いだした問題から、解決するための課題を設定することが大切です。

授業では、教師から提示された課題を解決する学習活動だけでなく、身の回りの事象から生じた疑問や問題を解決するために、科学的な課題を自ら立て、探究を進める学習の機会を設定していきます。また、生徒が疑問や問題から自分の言葉で課題を表現し、見通しをもって探究できるようにするために、「課題の把握」の段階で生徒が疑問や問題を見いだしやすい自然の事物・現象を提示していきます。

菰野町の子どもたち

生徒質問調査からみられた好ましい傾向

自分には
よいところがある
90.0%
(全国 86.2%)

いじめは
どんな理由があっても
いけないことだと思う
96.3%
(全国 95.9%)

学校に行くことが
楽しい
88.6%
(全国 86.1%)

先生は
自分の良いところを
認めてくれている
93.6%
(全国 92.2%)

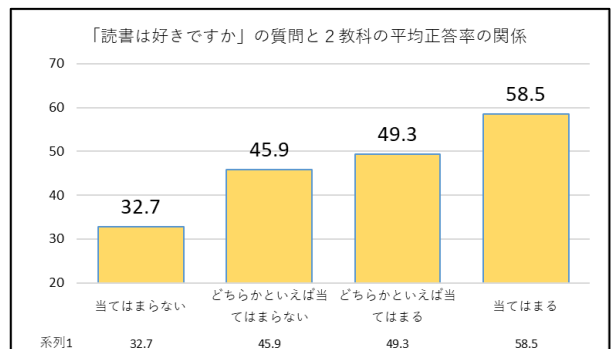
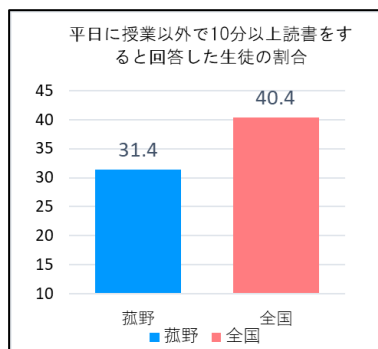
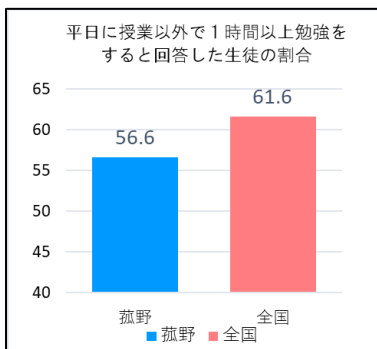
※子どもたちが生徒質問調査で肯定的に回答した割合が全国より高かった設問より

菰野町では、教育活動全体において、子どもたちを認めたり、考えや思いを受け止めたりしながら自己肯定感を育むこと、互いに認め合い支え合える人間関係づくり、安心して学べる学習環境づくりを大切にまいりました。今後も、子どもたちが将来の夢や目標の実現に向かって可能性を伸ばしていけるよう、一人ひとりのよさを認めたり、達成感を味わわせたりする教育活動を進めてまいります。

また、菰野町の子どもたちは、保護者・地域の皆様に支えられ、すこやかに成長しています。今後も保護者・地域の皆様と連携・協働して地域ならではの特色を生かした学校づくりを進めてまいります。

生徒質問紙調査からみられた課題

Q 学校の授業時間以外に、1日当たりどれくらいの時間、勉強や読書をしますか



授業以外で1時間以上勉強、10分以上読書をしていると回答した生徒の割合は、全国と比べて低い傾向にあります。

読書が好きな生徒ほど、教科の平均正答率が高くなる傾向が見られます。

保護者の方へのお願い

家庭で学習する習慣を身につけさせましょう

子どもたちに学校で学習した内容を定着させるためには、家庭での学習習慣を身につけさせることがとても重要です。繰り返しの練習や授業の予習・復習に日常的に取り組むことで、基礎・基本が確実に定着していきます。

子どもたちが毎日の家庭学習に取り組むことができるように、励ましの声かけや学習に集中して取り組める環境づくりにご協力をお願いします。

また、ゲームをする時間やスマートフォン、タブレットの使用時間が長時間とならないように、見守りや声かけもお願いします。

菰野町では、家庭学習の充実のために「家庭学習の手引き」を作成し、子どもたちと保護者の皆様に配付しています。「家庭学習の手引き」をご活用いただき、お子さんと一緒に家庭学習の取り組みについて、振り返っていただきますようお願いいたします。

保護者・地域の皆様へ

菰野町では、学校と教育委員会が一体となって、子どもたちの「確かな学力」の育成をめざして、子どもたちが「わかる・できる喜び」を実感できる授業改善と学力向上に向けた取り組みを進めてまいります。

今後も、学校・家庭・地域が一体となって、子どもたちの成長を支えてまいりたいと考えておりますので、ご理解とご協力をお願いします。